

書評

酒井文和, 上甲 剛, 野間恵之 編集

特発性肺線維症の画像診断—蜂巢肺,
IPF/UIP 画像診断の理解のために

沖縄県立中部病院呼吸器内科 部長

喜舎場 朝雄

この程、「特発性肺線維症の画像診断」がメディカル・サイエンス・インターナショナル社から発行された。臨床・画像・病理のそれぞれの視点で現在の国際ガイドラインのポイントと課題を浮き彫りにしている。また、それぞれの章で優先順位の高い鑑別疾患との相違点を丁寧に解説している。

大事なポイントとして、まず肺線維症の診断における蜂巢肺の意義と問題点を提起している。定義はあるものの最近の本邦からの報告にもあったように、蜂巢肺の診断はびまん性肺疾患を専門とする胸部放射線科医師の間でも一致率は低い事がわかった。本書では、これまでの国際ガイドラインで全く触れられなかった特発性肺線維症の病理所見からの出発点である小葉辺縁からはじまる線維化、比較的狭い範囲での正常・網状影・すりガラス陰影・濃厚陰影などの多彩な所見が見られるいわゆる時

間・空間的不均一さをいかに捉えるかが重要であり、今回のガイドライン改訂へ反映させるべきと提言している。これは臨床医および胸部放射線科医に対して蜂巢肺の有無だけにとられる事の限界と疾患の発症・進展プロセスの理解がより正確な診断に結びつく事を示唆している。

次の重要なポイントとして、胸部画像所見を臨床症状と照らし合わせながら経過を追って変化を評価する事が疾患の本質を捉え、治療に反映できる事につながる点が強調されている。特発性肺線維症が安定した患者から進行性の経過をたどる人まで多彩な臨床経過を示す疾患群と解釈した場合に、この時間軸を意識したアプローチは日常診療に極めて有効に活かせるものと確信する。また最近、話題になっている喫煙関連間質性肺炎の重要所見、気腫合併例での見極めのポイント、肺がん合併時の好

発部位などに関しても解剖をきちんとおさえた着眼点を見事に示している。

さらに伊藤春海先生の章では、肺オブジェを提示して肺そのものを触り3次元構造をイメージできるように導いていくシナリオが展開されており、特に小葉・細葉辺縁構造について詳細に解説している。武村民子先生の病理解説では、線維化の成り立ちを美しくわかりやすく示している。福岡順也先生の項でも、現在のガイドラインに照らした所見、二次性 UIP についての解説と今後の病理診断の標準化に向けた展望をポイントについて記述している。

このように、本書では執筆の中心になった酒井先生、上甲先生、野間先生によって特発性肺線維症の画像診断の現状での課題が示され、病態を踏まえた将来の画像診断の国際的な標準化を目指す大きな契機となる事を意識して書かれている事がわかる。本書はこれから呼吸器内科医師を目指す医師からエキスパートまでに自信をもってすすめることのできる珠玉の書である。

[B5 276 頁 2015 年 定価
6,912 円(本体 6,400 円+税 8%)
MEDSi 刊]